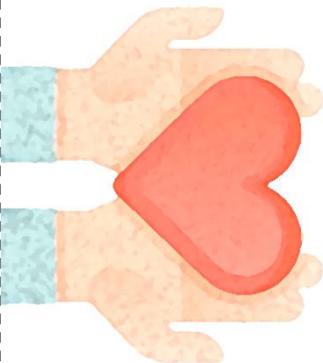




いのちの言葉



分かち合う
よろこび

マタイ福音書10章8節
を読んでみましょう。

「ただで受けたのだから、
ただで与えなさい。」

イエスの持っておられた考え方は、福音の中に表われています。「何かを受け取るのは、自分のためにため込むためではなく、**分かち合うため**」だと。自分が受け取ったものを思い浮かべてみましょう。体力気力、才能、能力、たくさんのモノ。それらのものを、誰かのためにも使えます。



「福音のなかで常にイエスは、与えるようにと呼びかけています。貧しい人に、頼んでくる人に、お腹が空いている人に食べ物、衣服を求めると人に上着までも、無償で与えなさい・・・と。」

無償で与えること。

イエスご自身もまず自分から先に与えました。病气の人に健康を、罪を犯した人には赦しを、私たちみなに、真のいのちを。

イエスは呼びかけます。

自己中心的な本能をのりこえて『寛大さ』を、自分の要求だけを満たしたい気持ちをのりこえて『人への心遣い』を持つように。『所有する文化』ではなく『与える文化』を生きるように。



愛そうとすると、私たちに新しい目が与えられます。相手が何を必要としているかを察し、どうすれば助けられるかも見えてくるでしょう。結果、与えたものは循環していきます。愛は愛を呼び起こすからです。『受けるよりも与える方に喜びがある』(使徒言行録20・35)とあるように、与える喜びはさらに倍増していくでしょう。」¹

1 キアラ・ルービック
2006年10月のいのちの言葉より

一致をめざす少年少女(T4U)
国際事務局による編集済

切って折ると、今月持ち運ぶことができるカードになるよ!

行動に移してみよう

与える貯金箱

誰かと一緒にやってみましょう

カードを数枚用意し、文字か絵で、自分が日頃与えられそうなモノや行いをかく。(ペン、スマイル、お菓子などなど)

学校や家で実行できたカードを、先に用意した「与える貯金箱」に入れる。

貯金箱は私たちの寛大な行いでいっぱいになるでしょう。みんなで会うとき、それぞれの貯金箱を開けて、カードを使って、経験を分かち合いましょう。



僕らの経験:



コンゴの
ヴェルジェンスの経験



「学校に行く途中、

私は、お腹がペコペコでした。ちょうど親戚の叔父さんが通りかかり、私にパンを買うお金をくれました。少し行くと道端にとっても貧しい男の人がいました。



私はすぐに貰ったお金をその人にあげようと思いましたが、そばにいた友達が『そんなことしないで、自分のことを考えなさいよ!』と言いました。



でも『私には、明日きつと、食べる物があるけど、あの人は?』と思い、その人にお金をあげました。私の心は大きな喜びでいっぱいになりました。」